



独立行政法人 国立病院機構
村山医療センター

Vol.45

令和2年1月発行

発行者 院長 朝妻 孝仁

医療連携通信

〒208-0011 東京都武蔵村山市学園 2-37-1 TEL 042-561-1221 FAX 042-564-2210 <http://www.murayama-hosp.jp/>

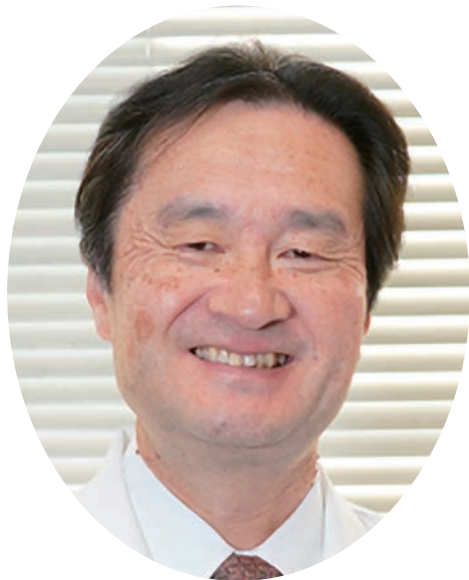


目次

- ◇ 新年のご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ◇ 新任医師紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- ◇ 子供の腰椎分離症について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- ◇ 医療従事者向け地域リハ研修会開催報告・・・・・・・・・・ 6
- ◇ 第22回市民公開講座の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- ◇ 外来診療担当医師・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

新年のご挨拶

院長 朝妻孝仁



皆様、新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

当院にとって長年の悲願であった新病棟が昨年3月に完成しました。3月16日に竣工記念式典を挙行、23日に旧病棟からの引っ越しを行いました。新病棟の病床数は従来と変わらず、303床ですが、旧東病棟と西病棟を1つに統合し、地上6階建てとなりました。

1階（第1病棟）が回復期リハビリテーション病棟、2階（第2病棟）が運動器リハビリ病棟、3階（第3病棟）が地域包括ケア病棟で、4階（第4病棟）、5階（第5病棟）、6階（第6病棟）が一般急性期病棟です。当院の特徴として、急性期病棟で手術を受けた患者さんが、そのまま同じ病院内で、同じ主治医のもとで引き続きリハビリテーションを行うことができる点です。これは患者さんにとっても病院にとっても大きなメリットであると考えています。

新病棟では従来に比べて個室の数を19室から63室と大幅に増やし、患者の皆様のニーズに答えることができるようより快適な療養環境を整えました。また、新病棟の1階には収容人員140名の地域医療研修室を設け、各種セミナー等の催し物の開催が可能となりました。昨年11月2日には恒例の市民公開講座を開催し、多くの市民の皆様にお集まりいただきました。

当院は1941年に開設以来、骨運動器疾患、すなわち整形外科、およびリハビリテーション科を中心として診療を行ってきました。手術件数が全国で1,2位を誇っている脊椎・脊髄外科に加えて、下肢関節（膝関節、股関節）、および上肢（手、肘関節）の分野でも優秀なスタッフを揃え、実績を伸ばしています。さらに内科、外科でも常勤の専門医が診療にあたっています。外科は一般外科に加えて最新の腹腔鏡による低侵襲腹部外科手術、経皮的胃ろう造設術を専門としています。また、当院には地域包括ケア病棟がありますので、在宅の患者さんのレスパイト入院、リハビリ目的の入院にも対応しています。これからも地域に根ざした医療を住民の皆様を提供していきたいと考えています。何かお困りのことがあれば、是非、当院の地域連携室にお声掛けください。「患者さんの視点に立ち、良質で高度な医療を提供します。」という理念のもと、今後ともスタッフ一同努力してまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

新任医師紹介



澤近 真文

令和元年10月より赴任致しました、澤近真文と申します。伝統ある村山医療センターで働けることに、大きな喜びを感じております。

私は平成25年に慶応義塾大学整形外科学教室に入局し、その後幾つかの関連病院で整形外科医として研鑽を積んでまいりました。現在は下肢関節、主に膝関節を専門領域としております。今までの経験を活かし、人工関節の手術はもちろん、関節鏡を用いた低侵襲手術、手術を行わない保存的加療にも積極的に取り組んでいきたいと考えております。

下肢関節の痛みでお困りの患者様が、痛みのない活動的な生活を送れるよう当院で尽力していく所存です。何卒宜しくお願い申し上げます。



徳永 慶太

2019年10月より慶応大学から赴任致しました徳永慶太と申します。専門はまだ決まっておらず、以前の病院では外傷を中心に学んできました。脊椎を専門にすることを希望しており、日本でも屈指の脊椎の症例数を誇る村山医療センターに勤務することができ、大変嬉しく思っております。

外傷についてもまだまだ経験したいので、どんな症例にも真剣に向き合い、患者さまの症状をスタッフの皆様と協力して改善していきたいと

考えております。

知識・経験等が至らずご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、少しでも患者さまの手助けができるように日々精進してまいりますので、何卒よろしくお願い致します。

村山医療センター撮影情報

近年、病院を題材としたテレビドラマや映画などが数多く放送されています。また、医療ものに限らず面会や入院中のシーンなど病院の場面は数多く必要なようです。今回、いくつかの撮影を行いましたのでご紹介いたします。



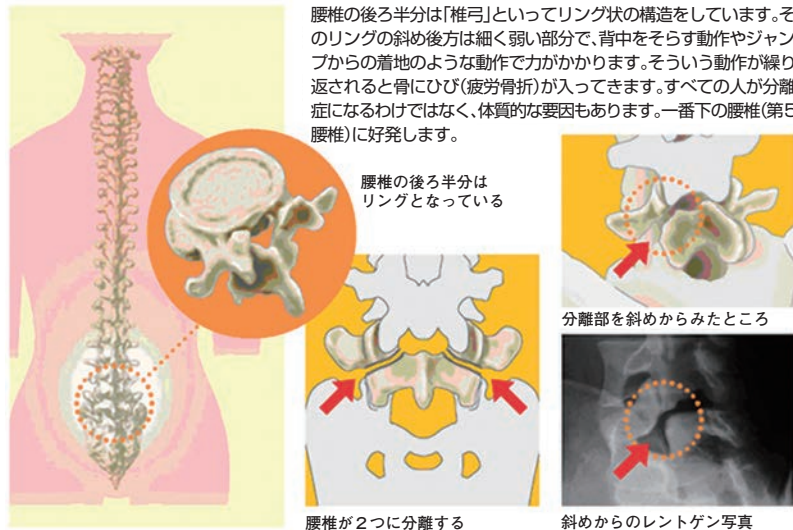
① 日本テレビ系シンドラ 「やめるときも、すこやかなるときも」

② 若手映画作家育成プロジェクト映画「魚座どうし」(仮)
村山医療センターは新棟への引越しに伴い、旧病棟は撮影にはうってつけの場所ではないかと思っております。今後もしもご依頼があれば積極的に協力したいと思います。ちなみに、最近もいくつかの依頼が来ています。またの撮影にご期待ください！

子供の腰椎分離症について

村山医療センター 整形外科医長 このみ 許斐 恒彦

ようついぶんりしょう
 腰椎分離症（以下分離症）は、椎弓（ついきゅう）と呼ばれる腰椎の後方部分が分離した状態のことを指します。疲労骨折が原因と考えられており、成長期のスポーツ選手に多発します。日本の一般成人では約6%（男性8%、女性4%）に認められます。



日本整形外科スポーツ医学会 HP より転載

1. 症状)

症状は病期によって異なります。分離発生段階には、腰を反らしたときに狭い範囲に限られた痛みを感じ、ほとんどがスポーツ中やスポーツ直後に腰痛を自覚します。

完全に骨が折れてしまい、痛いままそのまま長期間放置していると分離が完成してしまい、分離部は偽関節ぎかんせつというグラグラな状態になり、治りにくい状態になります。このときは、主に腰痛や下肢痛が生じます。このときの腰痛の原因は分離部の炎症と考えられ、膝の悪い人の膝に水がたまるように、分離部にも水がたまるようになります。また偽関節となった分離部は、周囲に骨の棘とげが発生し、神経と接触することで下肢痛を引き起こすことがあります。長時間座っていたり、立っていたりしても症状を自覚し、さらには歩行時にも下肢痛やしびれなどの症状が出てくる場合があります。若い頃の腰痛を放置した方で、年をとってから腰痛を持病で持っていて医療機関にかかれる方の中に、この分離症による偽関節を認めることが多くあります。

2. 治療)

分離症は、発生した最初のうちは単なる疲労骨折なのですが、時間とともに病態が変化していき、治療方法も大きく変わっていきます。そのため、治療にあたってはそれぞれの病態に応じた治療法が必要です。早い段階で適切な治療を行うことができれば、完全に治す可能性が高く、一方で分離が進行すると、完全な治療はだんだん難しくなっていく特徴を持っています。

2-1. 保存治療)

発生初期の段階の分離症に対しては、骨癒合を目指した根治治療をおこないません。まずコルセットを装着し、骨の癒合状況に応じて3ヶ月から12ヶ月間のスポーツ中止を指導します。

手や足の骨折に対してギプス固定をおこない安静にするのと全く同じです。きちんと治療をおこなうことができれば、保存的な治療で完全な治癒が得られる確率が高まります。さらには、柔軟性を高めるために、ジャックナイフストレッチ（下図）を、朝晩5回ずつおこないます。

一方で、ひとたび完成してしまった偽関節の状態の分離症に対する治療は、コルセットを装着して安静を保っていても、骨の癒合は望めません（くっつかない）。よって、痛みの管理が治療の目的になります。分離部由来の腰痛に対しては、消炎鎮痛剤内服から始まり、症状が強い場合にはブロック注射を行います。保存治療で効果がない場合は、根治的な手術を行います。

2-2. 手術治療)

早期のスポーツ復帰を希望される場合や、長期の安静が困難な場合、また分離の進行があり保存的に骨の癒合を得ることが難しい場合は、偽関節になっていない状態であれば、低侵襲での分離部修復手術が可能です。低侵襲の手術では、腰に約 1-2cm の切開を加え、筋肉を温存したままネジを骨折部に1本入れて（左右両方の場合は計 2 本になります）、分離部の固定をおこないます。傷が小さいため入院期間も短く（約 3-7 日間）、術後早期の競技復帰が可能となります。

偽関節の手術の場合、筋肉の剥離操作を伴うため侵襲が大きくなります。また偽関節部の骨の癒合を得るために、新しい骨を別の場所（多くは腸骨という骨）から採取し、偽関節部に、骨の移植を行う必要があります。偽関節がさらに進行していくと、椎間板が傷んでしまい、腰の骨がずれてくることがあります（腰椎分離すべり症）。すべり症を呈している場合には、スクリーと椎体間ケージを用いた腰椎後方椎体間固定術を行うことがあります。

このように分離症の治療は進行段階によって徐々に変わっていきます。しかし、早期に発見して治療の軌道に乗せることができれば、しっかりと治すことができます。スポーツ中に腰痛が続く場合には、整形外科を受診して、しっかりと診察を受けることをお勧めいたします。

まとめ

1. 腰椎分離症は腰の疲労骨折である。
2. 早期に発見できれば、コルセットで保存的に治すことが可能。
3. 少し進行してしまった場合は、低侵襲の手術で治すことができ、早期の競技復帰が可能。
4. 進行すると偽関節という状態になり、保存的に治すことは難しく、さらには手術も少し侵襲が大きくなる。
5. さらに進行すると、骨がずれてすべり症という状態になり、きちんと治すには、さらに大きな手術が必要となる。

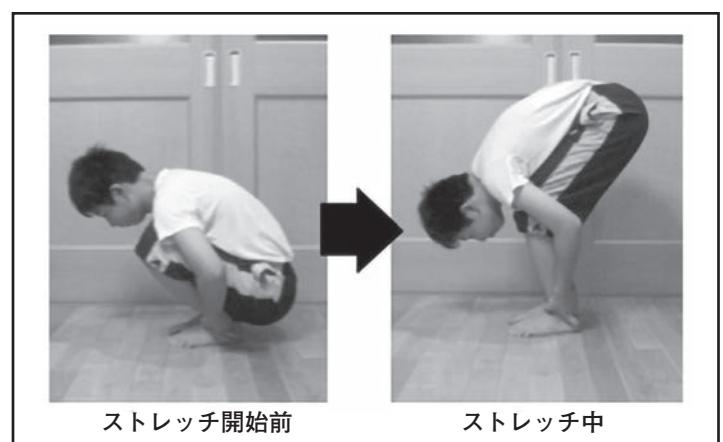


図2. ジャックナイフ・ストレッチ

（「ストレッチ中」の状態まで、膝をゆっくりと限界まで伸ばし、10秒間保つ。これを朝晩5回ずつ行う。）

医療従事者向け地域リハ研修会開催報告

経営企画係長 秋山 正紀

「車いす安全整備士」という資格をご存知でしょうか？

去る10月31日、武蔵村山市三ツ藤にある「介護老人保健施設アルカディア」において、アルカディア所属・理学療法士 芳賀沼麻美さんを講師として、「リハ職が考える施設利用車椅子の問題点と対策」というテーマに研修会を開催いたしました。今回の研修会は東京都より委託されている地域リハビリテーション支援普及事業の一環として開催し、参加者は30名と大いに活気あふれる会となりました。



介護施設内で最も発生する“移乗や移動に関わる事故”。その発生原因で最も多い原因が車椅子等の福祉用具の不適合ということで、自動車には自動車整備士がメンテナンスを行い、安全を守っていると同様に安全な福祉用具にはメンテナンスが必要なはずということで、“車いす安全整備士”という車椅子を中心に福祉用具のメンテナンスを行う資格を講師自らが取得し、施設内の用具管理をしているとのこと。研修会では、実際にブレーキやタイヤがメンテナンス不備となっている車椅子を用意していただき、研修参加者が試乗し危険を実際に体験したり、講師の方が作成したチェック表に基づいて点検方法を学んだりと時間を感じさせない軽快なテンポで、リハ職者がどのように施設内福祉用具に関与するかをわかりやすくご説明いただきました。

福祉用具のメンテナンスは、その多くが外部業者等におまかせすることが多く、なかなかリハ職の方自らがメンテナンスを実施している例は少ないということで、参加者の多くが実際の現場で起きている福祉用具の不具合の原因や解決方法について遅くまで会場に残り、講師の方に質問している様子がとても印象的でして、リハ職として今後の対応に大変役立つものでした。

上段でご紹介した「車いす安全整備士」は、“JASPEC（日本福祉用具評価センター）”という福祉用具専門の第三者評価機関が認定する資格だそうで、有資格者は新JIS規格に基づいて車椅子の点検整備や安全利用の指導を広げる役割を果たす技術者をとのこと。今後、施設利用者が安心・安全に福祉用具を利用するうえで、いつか有資格者の配置が義務化されることが起こりえることなのかもしれません。



第22回「市民公開講座」を開催しました

庶務係長 大熊 康博

村山医療センターでは、主に武蔵村山市民の方々を対象とした「市民公開講座」を定期的を開催しています。

今回で22回目の開催となり、武蔵村山市並びに武蔵村山市医師会の後援で、11月2日（土）に病棟建替え後初となる院内研修室を利用して「ご高齢になって腰が伸びなくなってませんか？」という演題で実施しました。80名を超える多くの市民の方が参加され席が足りなくなるほどの盛況となりました。



朝妻院長による開会の挨拶の後、竹光外来診療部長から「骨粗鬆症や筋老化による腰曲がり」、次に飯野外科医長から「腰曲がり影響する内臓不調」、さらに、近藤栄養管理室長から「美味しく食べて骨や筋肉を維持しましょ！」の講演が行われました。各講演後には、講演内容だけではなく、日頃疑問に思っていることも含めた質疑応答の時間を設けました。最後にリハビリテーション科山本運動療法主任から「腰回り、足の体操を中心に」と題して、会場にいらっしゃった市民の方と椅子を使ってできる体操をその場で行いました。

大変有意義な講座となり、今後も武蔵村山市民の健康に役立つ公開講座を開催してまいりますので、是非さらに多くの方に参加していただきたいと切に願っております。

最後に今回の公開講座に協力いただきました職員の皆さん、ポスター掲示など協力いただいた関係者の方々、武蔵村山市並びに武蔵村山市医師会にこの場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。



外 来 診 療 担 当 医 師

独立行政法人国立病院機構 村山医療センター

令和2年1月1日現在

■ 一 般 外 来

※受付時間 (初診：8時30分～11時まで)
再診：8時30分～12時まで)

診療科等		月	火	水	木	金	備 考	
内 科		片 寄	岡 田	片 寄	岡 田	岡 田		
外 科		大 石	飯 野	松 岡	飯 野	大 石		
整形外科	再診	脊椎	○朝 妻 ○竹 光 寺 本	◎谷 戸 ◎藤 吉 加 藤(貴) ◎松 林	◎山 根 古 川	○○許 斐 ○矢 内	松 川 ◎大久保 小 西	◎脊髄損傷 ○側弯 脊椎・脊髄 (頸椎・胸椎・腰椎)
		関節	清 水		澤 近	吉 原	笹 崎	股・膝関節・下肢
		手	加 藤(直)	小 池	加 藤(直)	小 池		手指・上肢
		一般		徳 永				
	初診	交替制						
リハビリテーション科		富 岡	植 村	松 田		交替制(※) (第4・5金は休診)	※第1金…松田 第2金…植村 第3金…富岡	
歯 科		宮 本	宮 本	宮 本	宮 本	宮 本	予約制	

■ 専 門 外 来 (全て予約のみ)

診療科等	月	火	水	木	金	備 考
内科リウマチ				片寄 (13:00~)		予約制
装具外来 (リハビリ科)	植村/倉片/竹内 (13:00~)					予約制
禁煙外来		岡田 (午前11:30~)		岡田 (午前11:30~)	岡田 (午前11:30~)	予約制
側 弯				矢内(15:00) 許斐(16:00)	金子 (第2・4・5週)	予約制
骨粗鬆症・筋老化					竹光 (第1・2・3・5週 13:00~15時)	予約制
※循環器科、泌尿器科、皮膚科、精神科については、一般外来を行っておりません。						

受診予約のご案内

○地域医療連携枠を利用した予約方法(医療機関からの患者紹介)

村山医療センターホームページ(<http://www.murayama-hosp.jp/>)より、
「医療関係者の方へ」→「紹介患者さん予約方法」をご参照下さい。

※不明な点等は、地域医療連携室(042-561-1254)へお問い合わせ下さい。

○一般の患者さんの初診予約方法

①村山医療センターホームページ(<http://www.murayama-hosp.jp/>)より、
「オンライン初診予約」がご利用いただけます。

②電話予約(受付時間 平日 13時から17時)

初診予約電話番号 042-561-1698(直通)・042-561-0965(直通)

※不明な点等は、②の初診予約電話番号にお問い合わせ下さい。